

松浦川水系

河川総合開発事業（井手口川ダム）

付替市道

付替県道

井手口川ダム

佐賀県



◆ 公共事業評価監視委員会を臨時に開催した理由

- 前回は平成18年度の事業評価委員会に諮り、事業継続の答申を受けた。
- 当初計画では、平成23年度に事業を完了させる予定であったが、平成23年度の7月～8月に発生した集中豪雨に伴い、付替市道に新たな地すべりの兆候が確認されたため、試験湛水の影響を含め対策工の検討が必要となった。
- 結果、対策工事が必要となり、平成23年度の事業完了が困難となった。
- 全体計画(工期の変更)の変更について、国土交通省の承認を得た。
- 事業評価監視委員会の答申を受けた後、国の交付決定通知が行われる。



- ◎ 結果、事業完了年度が平成23年度から平成24年度になったため、再評価対象事業となり、平成24年度の交付決定通知を受けるためにも、事業評価監視委員会の答申を受ける必要があるため、臨時開催をお願いした。

井手口川ダム建設事業

位置図



流域図



井手口川ダム建設事業の目的

① 洪水調節

ダム地点の計画高水流量 $100\text{m}^3/\text{s}$ のうち、 $75\text{m}^3/\text{s}$ の洪水調節を行い、井手口川沿川地域の水害を防除します。

② 流水の正常な機能の維持

農業用水(既得)や河川に生息・生育する動植物のために必要な流量をダムから補給します。(水深 10cm 程度常に確保します)

③ 伊万里市水道用水の開発

伊万里市上水として、ダム地点において新たに $4,000\text{m}^3/\text{日}$ ($0.047\text{m}^3/\text{s}$)の取水が可能ないように水源を確保します。

(大川松浦、福川内、福母、畑津、内野の簡易水道を上水道に切り換えます。)

①-1 洪水調節（治水の必要性）



大川町内浸水状況（老人を救出する消防団員）H2. 7. 2

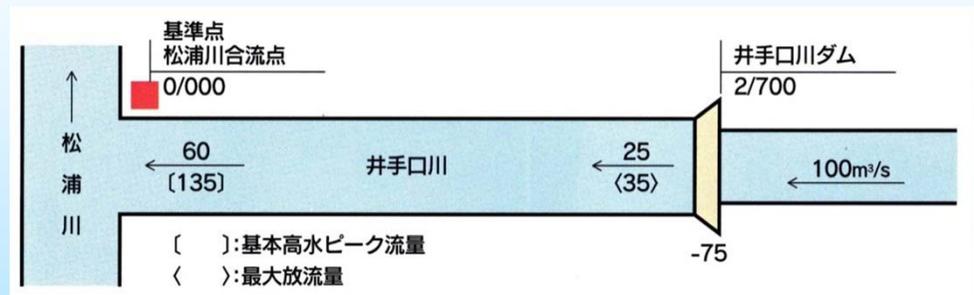


宿交差点浸水状況 H2. 7. 2



主要地方道相知山内線浸水状況 H2. 7. 2

計画高水流量配分図



※ 写真は本川松浦川と支川井手口川の洪水が
相まって生じた被害状況である

②流水の正常な機能の維持（不特定用水補給の必要性）



渇水により...

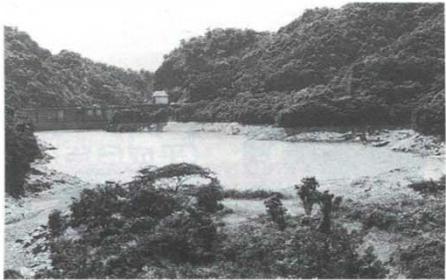


伊万里市大川町井手口地区
水稲枯死状況
H6. 8. 9
(竹の下溜池の直下流であっても被害あり)



平成6年の異常渇水では、井手口川の枯渇や、農作物の枯死などの被害が発生しました。

③-1 水道用水の開発（新規利水の必要性）



8月20日 雨が降らないため、竜門ダムは全貯水量の36%・31万トンまで減りました。



7月25日 国見台プールと市内小中学校プールが使用中止になり、子どもには寂しい夏になりました。

7月

7月18日 市に
湯水対策本部を
設置しました。

7月25日 節水を呼びかけるチラシを全戸配布しました。

雨なしの平成6年夏

8月



8月25日～26日 上水道12時間断水開始。市職員が配水管のバルブの開閉作業を行ないました。

8月25日 工業用水道30%の給水制限を開始しました。

9月1日 熊本県菊池市から“友情の水”1200㎥が届けられました。



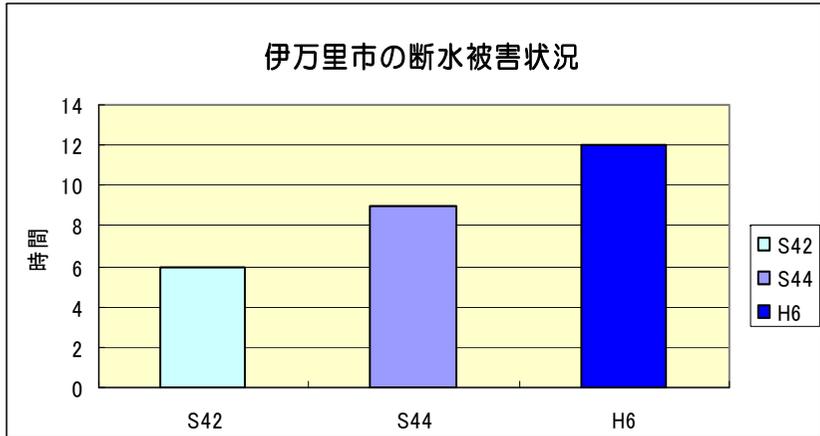
9月

9月3日～4日
上水道12時間断水再開

9月4日 市内のスーパーではポリバケツやポリ容器が飛ぶように売れました。

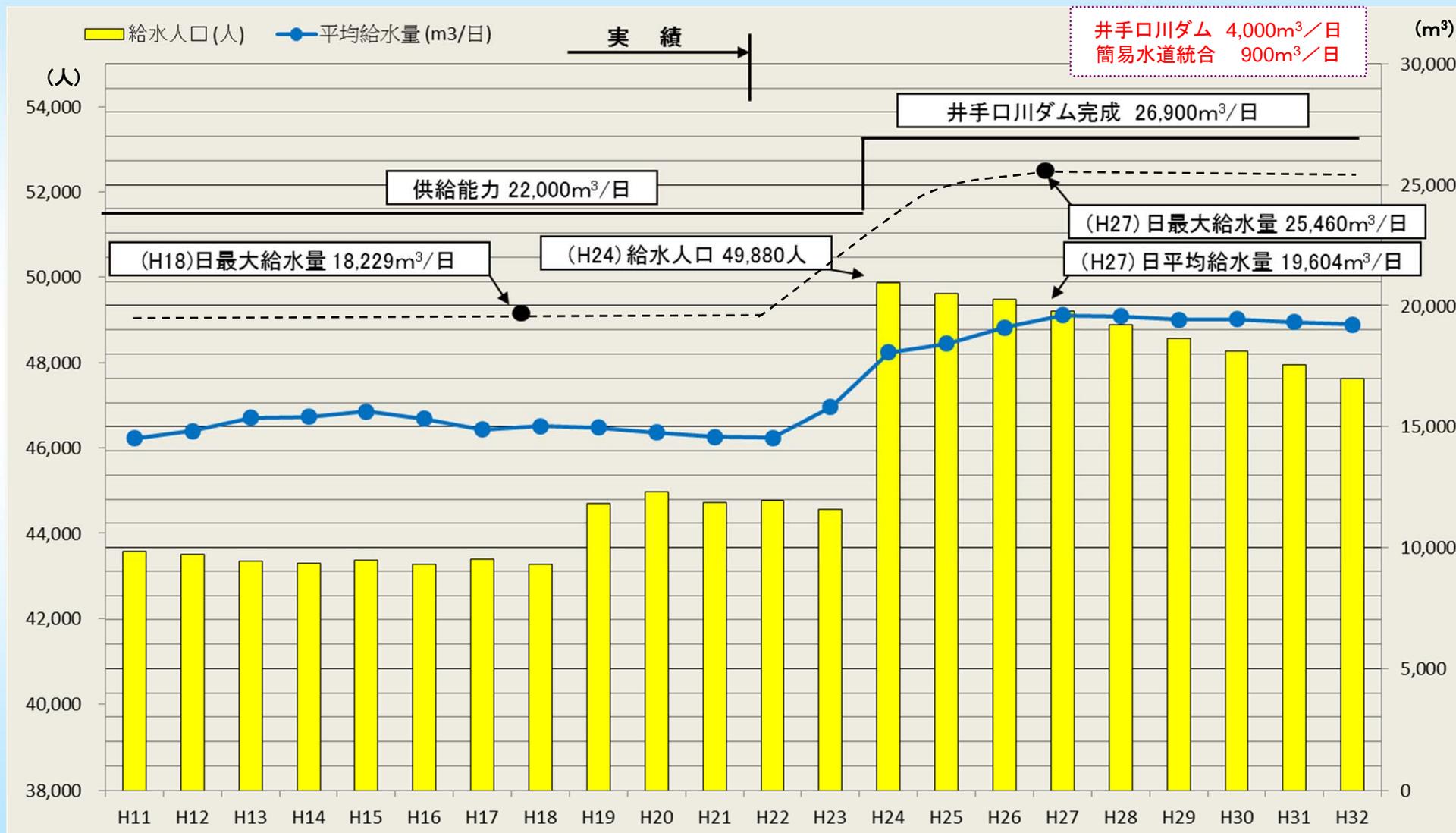


9月2日 市内小中学校の給食もパンや牛乳などの節水メニューに替わりました。



③-2 水道用水の開発（新規利水の必要性）

伊万里市上水道需要状況



(H23 伊万里市水道計画より)

井手口川ダム建設事業の概要

○ 事業箇所：伊万里市大川町東田代地内
(松浦川水系井手口川)

○ 全体事業費：約171億円 (全体計画策定時点)
〔実質 約138億円〕

○ダムの概要

- ・ 形式：重力式コンクリートダム
- ・ ダム高：43.7m
- ・ 堤頂長：235.0m
- ・ 堤体積：120,600m³
- ・ 総貯水容量：2,180,000m³
- ・ 洪水調節容量：770,000m³

○進捗状況 (H23年度末)

- ・ 事業費：約134.5億円(進捗率 97.4%)
- ・ ダム本体：完了
- ・ 付替県道：1.90km/1.90km(進捗率 100%)
- ・ 付替市道：1.44km/1.74km(進捗率 83%)
- ・ 付替河川：0.55km/0.55km(進捗率 100%)
- ・ 周辺環境整備：一式 (進捗率 60%)

○事業の経緯

- ・ 昭和54年度 予備調査開始(S54~S63)
- ・ 平成元年度 実施計画調査開始(H1~H8)
- ・ 平成9年度 建設事業着手
- ・ 平成20年3月 ダム本体工事契約
- ・ 平成21年5月 定礎式典
- ・ 平成23年5月 試験湛水開始
- ・ 平成24年2月 サーチャージ水位到達

容量配分図



費用対効果(B/C)

総費用額(C): 治水施設の整備及び維持管理(50年間)に要する総費用

総便益額(B): 治水施設整備によってもたらされる総便益額(被害軽減額)

[総費用額(C)及び総便益額(B)をそれぞれ現在価値化して比較する]

○ 総費用(C): 15,843百万円

○ 総便益(B): 24,505百万円

費用対効果(B/C = 1.55)

* 評価は「治水経済調査マニュアル」により行う。

「事業継続」

井手口川ダム事業の早期完成を実現し、地域住民が安心して暮らせる環境を整える必要がある。

井手口川ダム事業の現況



H24.2.16 撮影(下流から上流を望む)